

# 「どんぐり広場」運営に至るまでの準備学習と学生の学び

長 櫓 涼 子      吉 田 美 奈  
Nagaro Ryoko      Yoshida Mina

キーワード：保育と子育て支援・どんぐり広場・準備学習と受講生の学び

## 問題・目的

子育て支援とは、「子育てという営みあるいは養育機能に対して、私的・社会的・公的機能が支援的にかかわることにより、安心して子どもを産み育てる環境をつくるとともに、子どもの健やかな育ちを促すことを目的とする営み」（大豆生田, 2009）である。

子育て支援活動を実施する養成校は全国的にも多く見られるが、上田女子短期大学幼児教育学科では、子育て支援に関する「保育と子育て支援」（2年前期・選択科目）を開講し、受講生はこの授業で地域子育て支援活動「どんぐり広場」を数回に渡り運営する。本学ではこの取組が平成15年に始まり、平成18年には保育士資格の選択科目として単位化され今日に至る。授業は数名の教員で展開され、受講生等は子育て支援について専門知識と経験を学ぶことができるため、毎年20名前後の学生が受講する人気の高い科目である。「どんぐり広場」は科目が単位化されて10年続いた取組であるが、筆者は平成22～27年度までの5年間この授業に携わり、平成28年度からは主担当を担う。そして、授業に携わる中で、いくつかの課題が見えてきた。

まず、本学の「保育と子育て支援」の授業では、受講生が広場の支援活動を通して就学前の親子に関わり、子育て中の保護者の思いを理解することを目的としていた。小原他（2016）は、保育者養成校がキャンパスで行っている子育て支援活動の中で、担当教員らが学生に期待することのひとつに、保護者や子どもと“関係を作る”力が養成されることを挙げている。筆者等も同様の思いがあるのだが、幼稚園や保育所の実習において子どもの援助を中心に学んできた受講生等にとって、保護者との関わりは初めての経験で、いざ運営が始まると戸惑う学生の姿が見られた。殆んど学生は、広場の運営回数を重ねる中で、徐々に広場に求められる保育者の働きを理解し、保護者とも会話ができるようになるが、その頃には広場も最終回を迎え、子育て中の保護者の思いを十分理解するまでには至らなかった。

また、受講生等が準備・運営を行っている「どんぐり広場」は、地域で求められる子育て支援の様子を的確に捉えた環境設定になっているかということも疑問であった。これまでの受講生等は、担当教員による講義のほかに外部講師を招いての講話や、過去の受講生等の取組みから広場をイメージするしか手立てがなく、限られた情報源により「どんぐり広場」の環境構成

を行っていた。つまり、過去に保育所や幼稚園の実習経験しない学生らが、実際に自らが住む街ではどのような子育て支援の環境が用意されており、どのような親子が利用するのか、また職員は何を支援しているか等の予備知識が乏しいままに広場の運営をしていたと言えよう。

これらの課題を踏まえ、担当教員等は「保育と子育て支援」のシラバス内容を学生の実情を踏まえながら見直し、「どんぐり広場」を開催するまでの準備学習に大幅な改善を試みた。その内容のひとつに、地域の取組みに実際に参加しながら、自分たちが運営する「どんぐり広場」の準備を行うという試みであった。こうして開講された平成28年度の「保育と子育て支援」の授業をもとに、本研究では、「どんぐり広場」運営に至るまでの準備段階での学外活動が学生の学びをどの様に支えているか明らかにすることを目的にする。

## 方法

(1)対象：幼児教育学科2年生、「保育と子育て支援」の受講生16名中15名を対象とした。

(2)地域の子育て支援事業への参加：準備学習の一環として地域の子育て支援広場に参加した。

① 市が運営する子育て支援センター「にじいろ広場」の参与観察

日時：2016年5月14日（土）10:30～11:30 ※学生8名・引率教員2名

2016年5月28日（土）10:30～11:30 ※学生8名・引率教員1名

内容：上記日程のいずれか一日に参加し、広場の環境構成、職員の役割や仕事内容および親子と関わる時の留意点を学ぶ。

② 上田女子短期大学附属幼稚園「たんぼぼの会」への参加

日時：2016年6月22日（水）10:30～12:10、2016年7月6日（水）10:30～12:10

内容：上記日程の両日に参加し、「たんぼぼの会」の手伝いを通して、未就園の親子との交流を図る。

(3)振り返り授業の実施：受講生は、「にじいろ広場」および「たんぼぼの会」に参加した後、振り返り授業を通して振り返りシートを作成した。今回の分析に使用する表1の振り返りシートは15回目の授業で実施したものである。

表1. 「保育と子育て支援」の授業に関する振り返りシート（所要時間≒60分）

- (1) どんぐり広場の準備学習について
- (2) にじいろ広場の見学について\*
- (3) たんぼぼの会への参加について\*
- (4) どんぐり広場の運営について
- (5) 親子への関わりの中で学んだこと

※上記振り返りシート作成は各自受講生が実施

※「\*」印の項目を本件研究に関連する項目として分析

(4) 振り返りシートの分析：表1の「\*」印の項目のテキストデータを形態素化し、KJ法によってカテゴリー分類した。各カテゴリーにはコード名を付け、SPSS（17.0J）により出現頻度を計算した。なお、テキストを形態素化するにあたっての着眼点は表2の通りである。

表2. 地域子育て支援事業での学びの内容を形態素化する際の着眼点

1. 市が運営する子育て支援センター「にじいろ広場」での学び
  - (1) 広場の環境構成、職員の役割や仕事内容
  - (2) 親子と関わる時の留意点
2. 上田女子短期大学附属幼稚園「たんぽぽの会」での学び
  - (1) 親子・保護者との交流を通して何を学んだか

(5) 研究倫理：授業の取組みを研究で紹介したい旨を口頭および書面で説明し、研究協力の依頼を行った。受講生の成績評価に影響しないよう配慮し、前期の成績評価を終え後期が始まった段階で依頼を試みた。受講生の振り返りシートなどは個人が特定されないよう研究で使用することを説明し、後日個別に、書面に記した宛先に同意の有無についてメール送信してもらい、16名中15名の同意を得ることが出来た。

## 結果・考察

### (1) 地域の特徴

長野県東部に位置する上田市は、平成18年に4つの市町村が新設合併した人口16万人を擁する自然豊かな中核都市である。市が一般公開する統計調査（表3～表5）を考察すると、子どもと子育て家庭を取り取り巻く状況は、年少人口や生産年齢人口が減少傾向にあることに加えて老年人口が増加傾向にあり、今後更に少子高齢化が進行することが予測されている。人口推移は平成13年の166,979人をピークに減少傾向にあるが、世帯数は年々増加している。その一世帯の人数は平成25年には2.5人にまで減少していることから、核家族化が進行していることも見えてきた。このように、少子高齢化や核家族化の問題を抱える中で、毎年県内外から約5,000人近い人口が転入してくることも特徴である。

表3. 人口推移		単位：人・世帯		
年次	総数	男	女	世帯数
平成18年	161,461	78,995	82,466	60,608
平成23年	158,926	77,733	81,193	62,463
平成27年	159,828	78,312	81,516	65,925

※公開データを元に筆者作成

表4. 自然増加数（毎月人口異動調査）								単位：人	
年次	出生			死亡			増減		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
平成24年	1, 278	666	612	1, 750	900	850	△472	△234	△238
平成25年	1, 217	612	505	1, 842	857	985	△625	△245	△380
平成26年	1, 206	620	586	1, 832	884	948	△626	△264	△362

※公開データを元に筆者作成

表5. 社会増加数（毎月人口異動調査） 単位：人							
年次	転入			転出			差引増減
	総数	県外	県内	総数	県外	県内	（転入-転出）
平成24年	1,278	666	612	1,750	900	850	44
平成25年	1,217	612	505	1,842	857	985	338
平成26年	1,206	620	586	1,832	884	948	282

※公開データを元に筆者作成

また、地域子育て支援拠点事業実施状況（厚生労働省, 2015年）によると、長野県には151拠点（内訳：一般型137拠点、連携型14拠点）の拠点実績数がある。上田市は13か所の拠点実績があり、県外からの移住者も多いことから利用率が増加傾向にある（表6）。広場等の地域子育て支援では、子育て中の親子の交流促進や育児相談等を実施し、子育ての孤立感や負担感の解消を図り、全ての子育て家庭を地域ぐるみで支える取組みが行われている。

表6. 子育て支援拠点事業			
	拠点数	H22（人数）	H25（人数）
子育て支援センター	7	72,457	75,102*
児童館・児童センター	5	13,747	11,964
子育てサロン	1	4,646	4,701*

※増加傾向「\*」印

7か所ある子育て支援センターのうち、6か所は保育園併設型で比較的小規模であるが、本研究で学生が見学した「にじいろ広場」は市が運営する中央子育て支援センターとして市内で最も規模が大きい広場である。

(2) 市が運営する子育て支援センター「にじいろ広場」での受講生の学び

「保育と子育て支援」の授業に関する振り返りシート（表1）の（2）を分析した結果、66個のデータに形態素化され、表7の通り学生の学びを7つのカテゴリーに分類できた。

表7. にじいろ広場の見学で学んだことについての度数分布

カテゴリー	人数（%）	有効%	累積%
1. 環境構成（遊具・玩具）	19（24.2）	24.2	24.2
2. 環境構成（安全・安心への配慮）	14（21.2）	21.2	45.5
3. 環境構成（物の配置）	11（16.7）	16.7	62.1
4. 利用者（保護者）の様子	9（13.6）	13.6	75.8
5. 職員の様子	8（12.1）	12.1	87.9
6. 利用者（子ども）の様子	7（10.6）	10.6	98.5
7. その他	1（1.5）	1.5	100.0
0. 欠損値	0（0.0）	0.0	0.0
合計	66（100.0）	100.0	100.0

にじいろ広場の参与観察では、受講生は環境構成に関する学びが最も多く、上位3位を占めた。表7の分析結果と併せて振り返り記述の詳細を考察すると、地域の子育て支援広場を初めて経験する受講生が広場の雰囲気を感じながら、環境の細かな工夫まで学んでいる様子が分かる。

環境構成の学びの中で最も多かったのは、広場に用意されている遊具や玩具に関する記述で、中でも手作り玩具への興味が高かった。振り返り1・2は代表的な学びの記述であるが、受講者は手作り玩具ならではの素材を入念に観察しており、自らも作ることを念頭にしている。

振り返り1

手作りのおもちゃがすごく印象的だった。トイレトペーパーの芯やペットボトル、牛乳パックなど生活する上で身近に手に入る廃材を使って作られていて、自分も作ってみたいと思った。子ども達が休める場所、走れる場所など環境構成に多くの工夫が見られた。

注）受講生の観察に関する記述は二重線、本人の学びや感想には波線。以下同様

#### 振り返り2

にじいろ広場では、特に手作りのおもちゃについてたくさん学びや発見があった。ペットボトルに水とビーズが入っていて、見た目や手に伝わる感触がとても面白かった。他にも、ティッシュの箱を使った犬のおもちゃや、髪ゴムが付いていてひっくり返せるようになっている神経衰弱のおもちゃなど、様々な工夫がされたおもちゃが置いてあり、私自身作ることが好きなので、参考にして作ってみたいと思った。

次に受講生の興味関心が高かったのが、安全や安心への配慮である。振り返り3は最も代表的な学びの記述だが、子どもの安全がどのように守られているのか環境構成を観察するだけではなく、保育者としての細心の配慮や気配りの重要性を学んでいることが分かる。

#### 振り返り3

初めて市の子育て支援センターに行ったのだが、入口から子ども達が勝手に外へ出て行かないように柵があったり、ドアを開けるボタンも高い位置に付いていて、安全面に対する配慮が行われていた。手作りおもちゃのコーナーには、カーペットが敷いてあり、ハイハイをする子どもでも痛くないよう工夫しており、細かな部分にまで気を配ることが大切なのだということを学ぶことができた。

また、親子が安全に遊んだり安心して過ごすためには物の配置も重要であり、受講生等は安全な環境について学ぶ中で、物の配置の仕方やコーナーの作り方についても多くの興味を示した。その代表的な記述が振り返り4である。

#### 振り返り4

にじいろ広場では、大きい子どもから小さい子どもまで楽しく遊べるよう、年齢別に玩具などが別れていたり、トイレや授乳室も親子でリラックスできるような配置になっていて、環境設定をととても重視していた。年齢に合わせ、子どもが楽しいと思えるような手作りおもちゃも用意されていて、より子どもが遊びに集中できるようになっていた。

#### (3) 上田女子短期大学附属幼稚園「たんぽぽの会」での受講生の学び

「保育と子育て支援」の授業に関する振り返りシート(表1)の(3)を分析した結果、43個のデータに形態素化され、表8の通り学生の学びを6つのカテゴリーに分類できた。

表8. たんぽぽの会への参加で学んだことの度数分布

カテゴリー	人数 (%)	有効%	累積%
1. 職員の専門性	9 (20.9)	22.0	22.0
2. 利用者（子ども）の様子	9 (20.9)	22.0	44.0
3. 職員の様子	8 (18.6)	19.5	63.5
4. 利用者（保護者）の様子	6 (14.0)	14.6	78.1
5. 活動内容	6 (14.0)	14.6	92.7
6. その他	3 ( 7.0)	7.3	100.0
0. 欠損値	2 ( 4.7)	—	—
合計	43 (100.0)	100.0	100.0

ここでは主に職員への注目度が高く、上位3位のうち2項目が職員に関するカテゴリーであった。更に職員への関心と同じくらい注目が高かったのが、たんぽぽの会を利用する子どもの様子である。表8の分析結果と併せて振り返り記述の詳細を考察すると、職員がどのように専門性を発揮しながら広場を利用する子どもに関わっているのかを懸命に学び取ろうとする受講生の姿が明らかとなった。

#### 振り返り5

広場に来ている親子と関わる中で、先生方の「親子に純粋に楽しんでほしい」という願いが感じ取れた。“幼稚園の先生”とは違った“先生”という雰囲気を感じられ、親子が楽しく安全に過ごせる環境づくりをするというところでは、専門の知識は欠かせないが、親子の間に入って何かをするという関わり方ではなく、親子と親子を繋げる関わりをしていた。このことが子育て広場の大きな役割でもあった。

注）受講生の観察に関する記述は二重線、本人の学びや感想には波線。以下同様

#### 振り返り6

実際にお母さん達は子どもを良い子に、製作物はきれにという周りから見られている点を重視しているのではないと思った。その中でお母さんは、子どもに活動をしてほしいという気持ちが強いが、子どもは違うという場面で、どんな風に関わればお母さんが安心し、子どもの興味に目を向けられるだろうと考えた。先生方が声をかけている様子を見て、自分の話しかけやすい雰囲気作りが大切だと思った。

振り返り7

“保育者”という目線で入るのではないということの大切さが良く分かった。「あれをやってください」「これをやってください」と形にはめようとする、どうしても親も緊張し、本来の目的である園の特徴、様子を知る、活動を楽しむ、他の親子と交流をするということが出来なくなってしまう。この会で親子が求めていることは何なのかということを理解し関わっていくことが必要だと思った。

振り返り8

子どもがはさみで短冊用の紙を切ってしまった時、「切っちゃったの?」と言いつつ、あえてその行動をやめさせなかったのは、子どもの折り紙を切りたいという気持ちを優先したのかなと思った。そういったことを見越して、先生方も短冊や折り紙をかなり多めに用意していたのかもしれない。先生方も見回っていたが必要以上に関わっていないように見えた。

ここで受講生等は、子育て支援に携わる専門職者として親子の気持ちに寄添うことの重要性を学んでいる。子育て支援では、敢えて保育者としての専門知識を前面に押し出すのではなく、話しかけやすい雰囲気での保護者に接することや、子どもの意欲を大切にしたり関わりを実践することが大切だということを学んだようである。云わば、親子を繋げる「縁の下での力持ち」としての保育者の在り方を学んだと言えよう。

## まとめと今後の課題

本研究では、「保育と子育て支援」の受講生が「どんぐり広場」を運営するための準備学習として、地域の子育て支援広場に参加した様子を取り上げた。そして、受講生が学外授業を振り返って作成したシートを分析することで、彼女達が地域の子育て支援から何を学んだのかを明らかにしてきた。

まず、市が運営する子育て支援「にじいろ広場」の見学では、参与観察を通して手作り玩具の素材を確かめ作り方を学ぶ姿や、各コーナーの物の配置などから安全や安心への配慮の工夫を学ぶ受講生の姿が見られた。先行研究(竹之下・馬見塚, 2016)では、学生が保育所や幼稚園実習との比較から、広場の環境構成の違いと多様性へ気づく様子が明らかになっているが、本研究においても、広場の環境構成を学ぶ受講生の姿が顕著であった。

次に、附属幼稚園の「たんぼぼの会」への参加を通し、受講生は親子や保護者との交流で何を学んだのかを振り返りシートから分析した。結果は、交流の中で職員が親子や子どもと関わる様子から、その専門性の大切さを学んでいることが明らかとなった。竹之下・馬見塚(2016)の調査では、地域子育て支援広場に参加した学生は、支援者としてのスタッフの行動観察を通



して保育所保育士との専門性の相違を感得している。本研究でも同様に、「たんぽぽの会」に参加した学生は、広場での活動中の保育者の様子に着目し、幼稚園教諭の専門性との違いを学び、子育て支援広場における保育者のあるべき姿を学んだと言える。

今回の広場体験では、環境構成の他に職員の役割や仕事内容、親子と関わる時の留意点も学びの内容に含め授業を計画した。受講生は学外活動を通して、広場に必要環境構成を学び、利用者の実情を踏まえた支援のあり方を学んだと言えよう。この点に関し、我々は目的を達成できたと考えている。しかし、振り返りシートを分析してみると、親子と関わる際の留意点まで学びを深めた学生はごくわずかであった。実際には学内での「どんぐり広場」運営を経験しながら関わりの留意点を体得していくのであろうが、授業回数などの制約の中どこまで学びを深められるかという課題点が残る。今後は、授業の開講時期なども含め時間的な制約に捕らわれることなく広場運営ができるよう見直しを図ることが課題である。

## 引用参考文献

- 小原敏郎・中西利恵・直島正樹・石沢順子・三浦主博 2016 「保育者養成校がキャンパス内で行っている子育て支援活動に関する調査研究」, 共立女子大学家政学部紀要62, pp153-163.
- 竹之下典祥・馬三塚珠生 2016 「学生の地域子育て支援ひろば実習から得られた保育士養成の課題」, 盛岡大学紀要33, pp43-52.
- 大豆生田啓友 2009 『保育用語辞典第5版』ミネルヴァ書房.
- 厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>
- 上田市 <http://www.city.ueda.nagano.jp/>